

グローバル通信

2019. 7 vol.50

Ryukoku University
GLOCAL TSUSHIN

空の青さが輝きを増し、夏を感じる季節になってまいりました。みなさま、いかがお過ごしでしょうか。令和の時代になりました今年度も、地域公共人材総合研究プログラムには学部生や社会人といった様々な年代の大学院生が集いました。日々の授業では、様々な立場の意見を持った学生たちが活発に議論をしています。記念すべき50号を迎えます今号のグローバル通信では、白須委員長の挨拶をはじめとして、特別演習の担当を務める教員の挨拶や新入生の自己紹介、50号の軌跡を振り返っていきます。身体にこたえる猛暑が続きますが、どうぞみなさま、夏バテなどされませんようにお体にお気をつけください。

「市民の力の結集で、新しい宇治市づくり」	1
持続可能な地域社会構築を担う『人財』育成を目指して	1
運営委員長ご挨拶	2
地域公共人材総合研究特別演習担当者からのメッセージ	2
2019年度特別演習 新入生自己紹介	3
50号記念歴代編集委員からのメッセージ	4
修了おめでとうございます	4
グローバル通信編集担当者紹介	4
事務局インフォメーション	4



「市民の力の結集で、新しい宇治市づくり」

山本 正
(宇治市長)

宇治市は、646年(大化2年)に宇治橋が架けられ、古代から交通の要衝として発展し、平安時代には、貴族の別業の地として栄えました。この頃、建立された平等院や、現存する最古の神社建築である宇治上神社は、世界遺産にも登録され、多くの観光客を迎えています。また、本市は、室町時代以降茶の産地として名声を馳せており、「宇治茶」は高級日本茶の代名詞とされ、茶業は現在も世界に誇れる伝統産業となっています。

この豊かな自然や歴史・文化遺産を守り育て、未来へと引き継いでいくため、第5次総合計画では「お茶と歴史・文化の香るふるさと宇治」をまちづくりの目標に掲げ、切れ目のない総合的な子育て支援や、「健康長寿日本一」を目指す取組み等、様々な施策を実施しています。

また、持続的に発展する魅力ある宇治市を築いていくため、本年3月に宇治市産業戦略を策定するとともに、6月には宇治商工会議所と一体で市内企業を支援する「産業支援拠点宇治NEXT」を開設し、市、企業、関係団体の連携・交流のもと市内経済の活性化や、市外からの企業誘致等への取り組みを開始しました。

しかしながら、少子高齢社会の進展により、本市においても将来に渡って人口の減少が予測されており、税収の減少や社会保障費の増大等、本市の行財政環境は、益々厳しくなるものと考えられます。さらに、複雑・多様化する行政ニーズに、行政だけで対応することは困難になってきており、地域力の向上で、防犯や防災、地域福祉等、様々な分野で市民やNPO等が参画し協働できるまちづくりが必要になってまいります。

そのような中、貴学の地域公共人材総合研究プログラムは、地方自治体やNPOなど分権社会において活躍する「地域公共人材」の育成を目的として様々な取り組みを実施されており、本市といたしましても、地域力の向上につながる貴学の取組みに、大いに期待を寄せているところでございます。

今後も、貴学との更なる連携を図りながら、本市職員の人材育成と、市民参画・協働を推進し、「市民の力の結集で、新しい宇治市づくり」に邁進してまいりたいと考えておりますので、引き続きご支援とご協力をお願い申し上げます。

持続可能な地域社会構築を担う『人財』育成を目指して



大平 拓磨
(一般社団法人 大和ブランド推進協議会 理事長)

現在、奈良県においても地域課題解決のためには、NPOの役割は重要になってきています。私たち大和ブランド推進協議会は、2013年に奈良県内の地域活性化を目的としたNPOとして設立することとなりました。その後、顧問として、元国土交通省事務次官や、関西有名テレビ番組の総合演出家などにも加わっていただき、協議会としては広い視野と高いモチベーションを有する人材を登用しながら現在の組織に至っています。そして、理事それぞれが積極的に地域活性化に取り組み、広義のNPOとして『活動』をする際に必要な分析力を備えた対話型組織として活動しています。

当協議会は、地域の方々、行政、企業と協働して活動することを第一と考えます。人物・寺社仏閣といった歴史的資産、地域資産をどのように活用していくか、また、新たな産業構築に向け、各セクターの方々との対話を重ねながら事業を展開してきました。今までも奈良県天川村、天理市福住地区、野迫川村など、地域の方々との協働しながら地域活性化に貢献してきました。

しかし、残念ながら奈良県での各地域支援、中間支援では、人材不足の観点から限界も感じています。そのため当協議会は、地域活性化だけでなく人材育成も地域支援の一つとして推進していく必要があるとし、この度「地域人材育成にかかる相互協力に関する協定」を締結いたしました。よって今年度からは、さらに学術的な知識を持った人材として次世代の担い手を輩出していくことが可能となります。前年度までに、当協議会の理事2名が、龍谷大学の「地域公共人材総合研究プログラム」により修士課程を修了し、リカレントという人材育成が必要である事も実証しています。

これからの地域社会では、コミュニティ再構築のためにソーシャル・キャピタルが必要とされています。さまざまな地域でソーシャル・キャピタルを構築し、コミュニティ形成してもらえる中間支援組織の『人財』育成を、龍谷大学と連携し進めていきたいと考えます。そして奈良県における中間支援組織としての役割を担っていきたくと考えております。今後ともご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

地域を支え、地域をリードする地域公共人材の育成を目指して

地域公共人材総合研究プログラム（以下「プログラム」という。）は、研究科横断型大学院修士課程として13年間の歴史を持つNPO・地方行政コースに、新しく経営学研究科の参加を得て、法学・政策学・経営学の3つの大学院の共同運営研究プログラムとして2016年4月にスタートしました。

人口の減少と高齢化の進展の中で、日本が持続的に発展するためには、それぞれの地域が歴史や文化を生かし、新たな魅力を創り出すことが何よりも大切です。このプログラムの目的は、「地域」に焦点を当て、地域を支え、地域をリードする地域公共人材（高度専門的な資質を有する人材）を育成することにあります。

このプログラムの特長は、研究科を横断した公共政策の広がりに対応するカリキュラムにより、理論と実践を架橋する研究・教育を展開していることです。学部卒の院生、地域間連携協定を締結した自治体やNPO・経済団体等から推薦される職員を含む社会人院生と多様な専門教員が共に学び成長する環境が整備されています。

このプログラムでは、専門的な理論とともに、現場に即して地域の課題を抽出し、その解決策を提示する能力を身に付けることができます。グローバルな視野を持ちつつ、暮らしの基盤となる地域に足場を置いて考え、行動する地域公共人材がこのプログラムを通じて育ち、全国で活躍することが我々の目標です。

異なった経験、知恵を持つ人たちがお互いに刺激しあい、高めあう創造的な関係が、優れた地域公共人材を育てる土壌となります。本プログラムは、新しい未来を創る意欲にあふれる人々を待っています。是非、ともに学びあいましょう。



地域公共人材総合研究
プログラム運営委員長

白須 正

特別演習は出会いと 学びのユニークな場

白石 克孝先生



地域公共人材総合研究プログラムのコアをなすのが必修の特別演習です。専門性も所属も異なる教員が複数で指導し、現職の社会人院生と若手院生・留学生院生とが共同して学びます。課題意識や経歴は様々かもしれませんが、社会の課題に主体的に立ち向かおうとしている皆さんから問いかけられ、互いの「厳しい」観点から相互批判がなされます。いろいろな角度からスポットライトが当てられることで、課題が立体的に浮かんでくるのだということを何度も味わってきました。まさに新しい学びのスタイルを提供していると自負するものです。院生にとって、それ以上に意味深いのは、新しい友人と出会うということかもしれません。職場も違い、年齢も違う人との出会いは、社会人院生になるほど貴重だということに気がついているようです。修了生のネットワークが継続しているのも素敵なことです。皆さん、龍谷大学でキャンパスライフを楽しんでみませんか？

世代を超えた「共通言語」

松尾 秀哉先生



昨年度からこの演習の一員となりました松尾です。よろしくお願ひします。私自身が大学卒業後、都市ガス業界、医療業界などの営業マンとして10年ほど社会人をしてから（家族の支えで感謝）学問の世界に飛び込みました。大学院に入った当初は、学術的な議論もできず、わからない用語が飛び交う中で（年下の）先輩たちに教えを乞うて、今に至っています。今はみなさんにアドバイスを側になってしまいましたが、思い返すと、あのころは必死で、叱られたりすることも多かったですが、夢中でした。この授業は、学生から大学院生になられた方と、社会人経験をへて大学院生になられた方が一緒に議論できる場です。最大の意義は、それぞれが「これでいい」と思っていたこと（考え、言葉、態度）が、他の人には通じないことを知ること。そして、相互に理解しあおうとして、それぞれが変化していくことにあると思います。変化がなければ進歩はありません。常に謙虚に他者の言葉に耳を傾けることで、お互いがわかりあえる「共通言語」ができあがります。私もその謙虚な心を見失うことなく、日々参加させていただこうと思います。

地域公共人材総合研究特別演習担当者からのメッセージ

社会人院生の熱意に えられた充実した議論の場

渡辺 博明先生



この演習は、自治体やNPOでの豊かな経験を有し、具体的な課題をもって集まる社会人院生の皆さんのおかげで、今日の大学の中でもたいへんユニークで活気に満ちた議論の場になっています。そこでは、学部から進学した院生の皆さんも、より若い感性にもとづく問いや意見をもって討論に参加しながら、自身の問題関心や方法に関する認識を深めていくことができます。さらには教員にとっても、毎回示されるさまざまな分野の現実的な論点にどう切り込み、論文作成につながる助言ができるか、自らの力量が試されるようで、よい意味での緊張感をともなう授業になっています。多様な参加者がそれぞれに刺激しあい、高めあえる空間を創り出しながら、ともに学んでいきましょう。よろしくお願ひします。

研究のプロセスを学ぶ 実践の場

細川 孝先生



隔週の水曜日の夜に2コマ連続で開講される「地域公共人材総合研究特別演習」は、わたしにとってかけがえのない特別な時間となっている。それは、受講生の「熱い思い」と報告の「多様性」が伝わってくるからだ。前任の短期大学での3年間の勤務を含め、この世界に職を得て23年目に入ったが、担当した科目でこれほど充実感を感じる科目は他にないと思う。「研究」というプロセスは何が特別なものでなく、一定の決まりごとにしたがって「真似る」ことから始まる、と思う。その際に、抽象的に「決まりごと」を聞いても（＝伝えても）研究の「仕方」を身に付けることは難しいだろう。具体的なテーマや研究の素材に即して、試行錯誤を繰り返すしかないのだから。そのような場に居合わせて、大学院生のみなさんの苦闘に寄り添っていくことができる（つもりになれる）のは、本当に有難いことである。それは、わたし自身にとっても貴重な「学びの場」であるからだ。

本プログラムに新たな新入生が入学されました。特別演習ごとに新入生の自己紹介と集合写真を掲載しております。

- ①氏名 ②所属研究科名 ③所属先(社会人大学院生のみ) ④研究テーマ、関心のある分野

①和泉 汐里
②政策学研究科
④学部時代は都市計画を学び、社会問題の解決とより良いコミュニティの形成を同時に行った都市計画理論に興味をもちました。大学院ではそのような計画理論の発展を追い、理論の継続性の考察を進めています。

①王 子常
②政策学研究科
④地球や人間に大切な水資源を守りたい! 汚染された水をどうやって処理するのか、綺麗な水をどうやって守るかを研究したい! 発展途上の中国と汚染をうまく処理した日本を比較し、水を綺麗にする政策を学びたい!

①金本 さくら
②政策学研究科
④大学の卒業では、大阪市福島区野田の路上の植木鉢が住民にもたらす効果・影響について植木鉢を見て回ったり、住民の方に聞き取り調査を行い執筆しました。具体的なテーマはまだ決まっていませんが、人と自然の関わりや、どのように都心部の自然資源を保全していくか...ということに関心があります。

①川畑 恵子
②政策学研究科
③ NPO 法人エコネット近畿
④学部時代から勉強の現場に長年関わってきました。これまでの現場でのモヤモヤを、学びながら整理したいです。修論のテーマはまちづくり協議会。参加と協働の視点から裁判員裁判についても関心を持って活動しています。4月に刊行された「あなたも明日は裁判員!」は著者割引がありますので、ご希望があればお声かけください。

①中野 ともみ
②政策学研究科
③特定非営利活動法人 ひらかた市民活動支援センター
④アクティブな地域公共人材として社会に存在する若者が、その活動を行うきっかけになった「気づき」を調査しています。その共通項を探り、若者の社会課題への「気づき」から「実践」に進む過程で、主体的な地域社会参画につなげるために、中間支援組織が役に立っていることは何かを研究しています。



水曜日 担当 白石克孝先生・細川孝先生

①西井 勇貴
②政策学研究科
④学部時代から勉強してきた地域レジリエンスというのが私のテーマです。このテーマでは主に防災や復旧復興などについて考察しています。

①潘 俊傑
②政策学研究科
④最終の研究テーマはまだ決まっていなくても、主に日本の長時間労働に対する施策をめぐって進みたいと思う。いま遂行されている政策はどこまで効いたのか。それらの施策に関する不適切な声を聞き、実際の結果を分析する。長時間労働率の低い国の相関政策を参照しながら、日本の状況に当たる改善できる点を検討する。

①星尾 げん
②政策学研究科
④大きなテーマとして、持続可能な社会づくりについて関心があり、研究を進めています。学部の卒業論文では、公共経営やガバナンス論について研究を進め、これからの地域経営のあり方や担い手について論じました。大学院ではこの分野をさらに発展させ、協働、地域自治、マネジメントに注目し研究を深めていく予定です。

①堀家 沙里
②政策学研究科
③認定 NPO 法人環境市民
④学部時代は環境社会学を学び、研究テーマは「和紙とひと、ひとと自然、自然と和紙との関係性やその背景にあるもの」でした。大学院ではこのテーマをより深く学びたいです。和紙の奥深い魅力や背景にある豊かな自然によってもたらされる、物質的ではない「豊かさ」をさまざまな方に発信できるよう、勉強を頑張ります。

①正岡 祥英
②政策学研究科
④研究テーマとして考えているのは、シティズンシップ教育についてです。シティズンシップ教育は、民主主義の根幹を担う市民を育成するうえで重要な教育です。そのため、シティズンシップ教育に関する研究を行うことができればと考えています。

①今西 仲雄
②政策学研究科
③城陽市役所
④仕事に直結する産業政策やまちづくりを研究テーマとしています。随所で的確なアドバイスをいただける先生方、予想外の鋭い質問が新鮮な若い院生の皆さん、そして異なる職場、年齢ながら戸惑いと同志感覚を共有する社会人院生による演習等の時間空間がとても素敵で、ワクワクする日々感謝しています。

①京藤 博行
②政策学研究科
③特定非営利活動法人 TMJ 研究所
④昨今 ICT 領域の進歩により、従来の紙への印刷が減少し印刷産業を取り巻く環境は大変厳しい状況です。そこで、京都市の中小印刷業の地域に密着した地産産業としての機能を多角的戦略として推進するために、自治体との協働連携としての産業政策に取り組み、課題を分析し今後の方向性を示すことを研究したいと思っています。

①中橋 晃季
②政策学研究科
③次城市健康福祉部障害福祉課
④関心のある分野は、行政手続で、この修士課程では、特に社会福祉分野における市民の方の申請手続をより分かりやすく、より便利にするために、行政から市民の方への制度に関する情報提供のあり方や情報提供の法的意義等について検討したいと考えています。

①廣瀬 ゆみ
②政策学研究科
③京都市役所
④地域活性化という言葉が出回っている昨今ですが、長年住み慣れた地域で、いかに満足度をあげて住み続けられるのか、その為には何が必要なのかについて関心を持っています。中山間部をモデルケースとして、持続可能な地域創生のためのプラットフォームの構築についてをテーマに取り組んでいきたいと考えております。

①水野 光浩
②政策学研究科
③(株)朝日エリア・アド(特活)奈良 NPO センター)
④朝日新聞を扱う広告代理店に勤務しており、新聞広告を使った市民活動の可視化を考えており、よりよい市民活動の共感を広げ、促すためにはどうすればよいか、ゆくゆくは協働につなげるためのプロセスとしての新聞の役割とは何かということを探りたいと考えています。



土曜日 担当 白須正先生・松尾秀哉先生

①山元 達俊
②政策学研究科
③湖南市役所
④人口減少社会の中で、小規模な地方自治体が持続可能なまちを創出するには、地域にある埋もれた特色を発掘し、地域の強みを生かした地域産業の活性化を図ることが不可欠と考えており、特に一次産業の再興によるまちづくりを、地域特性を生かした地域住民や事業者との連携、協働のもと活性化させるための手法を研究したい。

①田村 浩
②法学研究科
③ NPO 法人あったかサポート
④労働法の勉強がしたくて、このコースを志望しました。特に関心があるのは、解雇をはじめとした、使用者からの不法行為や不当労働行為です。多くの判例を参考にしながら、解雇法制の変遷をたどるとともに、現代社会におけるその効果、また労働運動の今後についても考察して行きたいと考えています。

①小松 右詩
②政策学研究科
④地方都市や農村地域の発展について興味があるため、整備新幹線と地域経済への影響をテーマに研究を行っています。整備新幹線が、首都圏一極集中の日本をどう変えるのか。付随する並行在来線問題などの負の影響はどうか。これらについて、政治、経済、環境など様々な視点から分析したいと思います。

①田中 友梨
②政策学研究科
④子どもの権利を研究テーマにしようと考えています。中でも子どもと国家のかかわりについて、現代では子どもに対する国家の干渉や介入が強いと感じているため、子どもの成長発達権や学習権の観点から、国家は子どもに対してどうあるべきか、ということを論じてみたいと思っています。

①筈谷 友紀子
②政策学研究科
④卒業論文では、ハンセン病施設を対象に「空間が残ることで悲劇の記憶はどのように継承されるのか」をテーマに研究を進めました。その中で、隔離されてきた福祉施設について関心を抱き、その供給計画や立地動態を今後明らかにしたいと考えています。

①李 非凡
②政策学研究科
④大学時代には特に二酸化炭素に興味をもっていて、卒業論文も炭素排出に関する論文を作りました。今2ヶ月ぐらいの大学院の学習により、「低炭素社会」と「エネルギー消費」および「政策」を組み合わせ、このテーマを研究したいです。

①盧 鶴天
②政策学研究科
④農業が安定に発展しているかどうかは、一つの国の存続に関わっている。農業が衰えると、他国から食糧物を輸入するしかない。これはまるで自分の命を他国に両手で奉るみたいである。農村・農業問題を解決する前に、農村の現状、農地の保護、維持政策、農村衰退問題とその原因を明確にすることについて引き続き研究する。

①田中 優大
②政策学研究科
④学部時代より都市計画・都市デザインを学んでいます。修士論文では都市史・都市計画史をテーマにしようと考えています。修論では、その中でも京都という都市を構成する上で大きな役割を果たしてきた近現代都市計画史にスポットを当てて行きたいと考えています。



50号記念 歴代編集委員からのメッセージ



鳥居 良寛 (2008年度編集委員)

2008年～2009年度にグローバル通信の10号～14号の編集委員をしていました。思い返せば、当時は広報誌などの編集などに携わった経験もなく、未知の分野だったので、非常に不安だったことを覚えています。それでも大矢野先生からの「今は大変かもしれないが、これも何かの力になる、きっとどこかで役に立つはず」との勧めで編集委員を務めさせていただきました。若輩者でしたが、色々な方々に執筆をお願いしたり、取材したり、沢山の出会いをいただきました。京都を離れて10年近くになりますが、今もお付き合いをさせて頂いている方々は私の人生にとって、大切な宝物です。また、限られた字数の中で後輩や協定団体先の方々にこのコースの魅力が伝わればと、喧々囂々・字数と締切時間への挑戦の編集をしていたことも懐かしく思い出されます。



そして、くしくも今、私は市の広報誌の区版の編集担当者として、広報誌の編集をしています。魅力ある紙面づくりのため、取材、取材、編集!の日々を過ごしています。当時の経験がこうして今の自分に還元されるとは思ってもみませんでした。このコースの魅力がいっぱいに詰まったこの通信が、遙かな時の彼方まで続くことを願っています。この度は50号の記念号の発行、おめでとうございます。

植村 暢子 (2014年度編集委員)

グローバル通信50号発行おめでとうございます。私が編集委員を務めさせていただいたのは政策学部・政策学研究科が設立してすぐの頃でした。社会人院生が沢山おられた代で、社会人経験のない私は「働いている大人」に囲まれる状況に、新しい学びへの期待と環境の変化への不安が入り混じった気持ちでした。



そんな中で引き受けたグローバル通信委員ですが、一番の苦労は何と言っても原稿が集まらないことでした。お仕事をされ、授業の準備や研究の時間を捻出されている中でさらにグローバルの原稿をお願いすることは当時も心苦しかったのですが、自身が社会人となった後思い返すとなおさら感謝の気持ちしかありません。一緒に悩んでいただいた先生、原稿をくださった皆様その節はありがとうございました。

しかし、その甲斐あってか(?)今も同期の方と年に数度、お酒を嗜んでいます。様々な職種・立場の方の近況を伺ったり、悩み事にアドバイスをいただいたりする機会があることは、一緒に授業を受けていた時代から今まで本当に大切な時間だと感じます。どうかこれからも政策学研究科が多種多様な方々の縁を結ぶ場でありませう、ますますの発展を念じ申し上げます。

修了おめでとうございます



修了式集合写真

2019年3月、27名
(政策学研究科10名、
法学研究科7名、
経営学研究科10名)が
修士課程を修了されました。
今後のさらなるご活躍を
期待します。



グローバル通信編集担当者紹介

グローバル通信50号は、昨年度担当の樋口育弘と今年度担当の小松右詩・田中優大の3名で編集を行いました。今年度も皆様に魅力あるグローバル通信をお届けしたいと思いますので、よろしくお願い致します。



事務局インフォメーション

●政策学研究科論文中間報告会

日時：2019年7月13日(土) 13:30～17:00
場所：龍谷大学深草学舎和顔館B103教室・B104教室

●協定先懇談会

日時：2019年7月17日(水) 12:00～14:00
場所：龍谷大学深草学舎紫英館大会議室

地域公共人材総合研究プログラム ニュースレター「グローバル通信」通巻50号 2019年7月

発行／龍谷大学大学院 地域公共人材総合研究プログラム
連絡先／政策学部教務課
TEL：075-645-2285 FAX：075-645-2101

H P / http://www.ryukoku.ac.jp/gs_npo/
編集／樋口育弘、小松右詩、田中優大
編集補助／神野華奈子、太田由記子、竹之内正臣
監修／グローバル通信編集委員会
印刷／株式会社 田中プリント